

帯広市男女共同参画情報誌

# カスタネット

第13回

Vol.29 2015.3

女と男の一行詩・最優秀作品 / 「ありがとう」言われたときの嬉しさは 男も女も変わらない

特集

## ワーク・ライフ・バランスとは？

(仕事と生活の調和)



ワーク・ライフ・バランスとは、一人ひとりがワーク（仕事）とライフ（家庭生活、地域活動、個人の自己啓発などの私生活）の調和を図り、その両方を充実したものにすることです。

仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらします。

また、家事、育児、介護等も暮らしには欠かせません。

その欠かせない家事、育児、介護の負担が女性に偏っているのが現状です。

男女が共に家族として責任を担い社会がこれを支援するためにも、

長時間労働など職場中心の生活を改め、ワーク・ライフ・バランスの取り組みが必要です。

- 男女共同参画セミナー「個人も企業も成長する秘訣～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～」
- 男女共同参画講座「ワーク・ライフ・バランス講座～テレワークで変わる柔軟な働き方～」
- 日本女性会議2014札幌レポート
- 第13回 女（ひと）と男（ひと）の一行詩入賞作品発表

※「カスタネット」とは、2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。



# 個人も企業も成長する秘訣

## ～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～

株式会社経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長の渥美由喜<sup>あつみなおき</sup>さんを招き、北海道中小企業家同友会とかち支部との共催でセミナーが開催されました。

ワーク・ライフ・バランス(WLB)の必要性や企業にとってのメリットなどの講演と十勝管内でWLBに取り組んでいる事業所2名のパネリストと渥美さんによるパネルディスカッションが開催されました。

### 講演より

#### ◆WLBの必要性

◎2025年以降は3人に1人が要介護になるという介護ラッシュを迎えますが、仕事を持っている男性の中にも介護を背負う人が出てきています。もはや、仕事か家庭生活(育児、介護等)を選択する時代ではありません。バランスが大切です。

◎「健康、休養」「子育て、介護」「自己啓発、趣味」など質の高い生活が土台となり、質の高い仕事につながっていきます。メリハリのある仕事が生活の余裕につながります。

◎企業にとって、人口減少社会においては、制約がありながらも働く人が活躍できる職場にしていかなければ、人材確保ができなくなっていきます。一人当たりの業務量はますます増大していくことから、効率的な働き方を習慣化することが必要です。



#### ◆WLBに取り組むには

◎中小企業の方が大企業よりWLBに取り組みやすいです。従業員との距離が近いことにより、共に課題を解決することができます。機動性、柔軟性にも富んでいるので助けたり、働きやすい雰囲気を作ることができます。

◎業務の効率化に取り組む、生み出される「時間資源」を自己研さんや生活の充実に充てるのが大切です。最近ではWLBが難しいとされる業界(マスメディア、ホテル・旅館、建設、IT企業など)ほど、取り組みを加速化させています。



#### ◆ワーク・ライフ・マネジメントは漢方薬

◎ダイバーシティ&インクルージョン※は経営戦略として不可欠です。

◎ただし、即効薬ではなく、漢方薬。服用し続けると、強靱な企業体質になっていきます。

◎近視眼的に目先の業績向上に目を奪われていると、どうしても後回しになってしまいます。しかし、そういう企業、職場に明日はありません。

◎このことに気付けるかどうか、日本企業、職場はいま大きな分岐点に立っています。

※ダイバーシティ&インクルージョンとは、多様性(性別、国籍、年齢、個々の違い等)を受け入れ、様々な意見やアイデアを聴き入れることで、組織の競争優位性を高める「成長戦略」のこと。

### パネルディスカッションより

#### ◆十勝管内の事業所の取り組み

(株)竹中配管 代表取締役 <sup>やま だ ゆき え</sup> 山田幸恵さん

(株)竹中配管は管工事、水道施設工事を行う従業員数14名(パート含み、うち女性2名)の事業所です。

子育て中のパート従業員がおり、上司と相談しながら勤務時間や仕事量の調整をして働いています。

親の介護が必要だった正職員については、社員が協力して、介護を行いながら勤務を続けることができました。説明をしなくても家族構成がわかるなど小さい職場だからこそできることです。

定年の65歳まで働き続けることができるような職場にしていきたいです。



(株)福原 ゼネラルマネージャー <sup>せい の り ずみ</sup> 清野範純さん

(株)福原は45店のスーパーマーケットを経営、正社員475名、パート従業員1,572名の事業所です。

育児休業制度は正社員、パート従業員とも2年間取得することができ、3回取得した社員もいます。また、介護休暇はシフト制によりパート従業員が取得しやすい環境整備をしています。

日頃のコミュニケーションが重要で、困ったときには互いに支えあえる関係をつくるのが大切です。今後は男性にも育児休業を取得してほしいと考えています。



講師：渥美 由喜さん

国内外のワークライフバランス・ダイバーシティ先進企業800社以上の訪問ヒアリング、分析を行う。コンサルタント、アドバイザーとして、取組企業の推進をサポート。厚生労働省政策評価委員も務め、プライベートでは8歳、5歳の子供の育児休業を取得、現在老父の介護に奮闘中。



# ワーク・ライフ・バランス講座 テレワークで変わる柔軟な働き方

★ワーク・ライフ・バランスの実現に役立つ  
**テレワーク**という働き方を知っていますか？

**テレワークとは** パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

ワーク・ライフ・バランスの必要性が叫ばれ、子育て、介護、長時間労働などこれからの時代を乗り切るための働き方のツールとして考えることができます。

## テレワークがもたらす効果

〔企業〕

- 通勤・交通費等のコスト削減
- 優秀な人材の確保や障害者の雇用
- ワーク・ライフ・バランスの維持
- 生産性の向上 等

〔労働者〕

- 通勤時間の削減
- 子育てや介護との両立
- 自由な居住地の選択
- 病気やけが対策
- 雇用の継続 等



## 働く人にやさしく企業にとっても経済的

育児休業中、様々な理由で「しっかり働きたい」と考える人やパートナーの転勤で居住場所が変わらざるを得ない人などが、テレワークによって、在宅勤務で柔軟に働き続けるという新しい選択肢が生まれます。

企業側にとっては、育児休業からの復帰後スムーズに業務を再開してもらえたり、優秀な人材の確保など様々なメリットがあげられます。

## 本気でやれば在宅勤務はここまでできる

テレワークの長年の実践者である(株)ワイズスタッフ・(株)テレワークマネジメント代表取締役田澤由利さんは、初めからできないとあきらめず、「本気でやれば在宅勤務はここまでできる」と熱いメッセージを込めて講演されました。

## 日本女性会議2014札幌レポート

男女共同参画社会の実現に向けて課題の解決策を探る日本女性会議が10月17日～19日に札幌市で開催されました。第31回目を迎える今大会は、初の北海道での開催となり、全国から約1600人が参加しました。

「未来の景色は、わたしたちが変える」をテーマに、全13の分科会や交流会、記念講演、シンポジウムなど多くを学ぶことができました。



### 《分科会・農業女子が地域を変える！》

ファームレストラン花茶代表の小栗美恵さん講師に、ご自身の農場経営の体験についてお話しいただきました。小栗さんは高知県から親の反対を押し切って北海道に来て、紹介は「家の嫁さん」仕事にしても小遣いはないのが当たり前。これでは人生台無し！自分の人生を自分で開拓しようと考え、36歳で夫を説得して、イチゴ狩りができる農園づくりを始めました。予想以上に収入がありビックリ！次第に周りの人たちも認めてくれるようになり、現在は七戸の女性で1ヘクタールのイチゴ観光農園を経営するまでになりました。その後イチゴの高付加価値を目指し自家製アイスクリームの製造販売や、息子さんをヨーロッパに研修に出して、農業レストランの増設や親子で楽しめるそば道場を開くなど、アイデアが次々浮かび、現状に満足することなく実行に移していく話に聞

き入ってしまいました。最後に、「地域が元気になれば子どもが元気になり、戻って来てくれる。自分が幸せでなければ子どもは幸せになれない。自分のことは自分で決められる人間になりたい。」と話され、参加者に感動と勇気を与えてくれました。

### 《分科会・日常から考える、防災における男女共同参画》

東日本大震災を経験し、避難所運営にも携わってこられたファシリテーターと4名の情報提供者の方々から、当時の経験を踏まえた防災に対する考えをお話しいただきました。実際の避難所では女性などのニーズが伝わらなかつたことから、男性・女性が共に運営に関わることが重要です。そのため、避難所で起こる問題について話し合い、みんなの納得を得ながら正解に近づけていく体験をしてほしいとの思いで「仙台版防災ワークショップ・みんなのための避難所作り」を作成しました。震災では「平常時にできないことは非常時にもできない」ということを学び、多様性に配慮した避難所運営は、誰もが暮らしやすいまちづくりの延長線上にあります。女性をはじめ誰もが普段から地域のことを決定する場に参画し、日ごろから積極的にまちづくりに関わることを、それがいざという時の力になることを知ってほしいとのことでした。



(帯広市男女共同参画推進員 澤木勲作・遠藤妙子)

# 平成26年度後半に 帯広市が実施した 男女共同参画事業のご紹介

- 帯広市社会参画支援講座  
12/2 「セクハラ・パワハラ防止講座」  
講師：女性労働協会 桂香代子さん  
3/21 「パパ・ママのためのアンガーマネジメント～怒りのコントロールで変わる子育て術～」  
講師：日本アンガーマネジメント協会  
公認シニアファシリテーター 長縄史子さん



- 女性に対する暴力をなくす運動  
パネル展 (11/12～11/25)  
帯広市役所市民ホール
- 帯広市男女共同参画講座  
11/18 「DVの理解を深める基礎講座」  
講師：帯広市女性相談員



- デートDV予防講座  
講師：NPOピーチハウス  
しげんばる  
志堅原郁子さん  
11/18 (白樺学園高等学校)



## 第十三回 「女と男の一行詩」

入賞作品発表!

最優秀賞



「ありがとう」  
言われたときの嬉しさは  
男も女も変わらない

中山 瑠規さん (中学生)

普段から何気なく使っている「ありがとう」という言葉ですが、男も女も関係なく人の心を暖かくすると感じています。そんな思いで作りました。

優秀賞

ネクタイが 仕事を終えて  
エプロンに

佐藤きさらさん (高校生)

夫も主夫ができるという事に魅力を持ったので一つの詩を作りました。また詩の見た目で比べやすく伝わりやすいように「ネクタイ」と「エプロン」を選びました。

優秀賞

男女の強み 両方生かせる  
社会がいい

諏訪 真由さん (高校生)

女性と男性、それぞれ持っているものや発揮できる力は違います。お互いの個性を生かし協力することで活躍できる社会になれば良いなと思います。一行詩を書きました。

「女と男の一行詩」に多数のご応募をいただきありがとうございます。十勝管内在住・在勤・在学の方を対象に募集したところ1038作品のご応募をいただきました。一般投票と選考委員による審査の結果6作品が入賞しました。



入選

男女の差 なくす一歩は  
意識から

寺町 咲希さん (高校生)

キッチンで 会話も弾(はず)む  
パパとママ

平泉 尚登さん (一般)

女(ひと)と男(ひと)励まし  
合って支えあい 作っていきよう  
明るい未来

多田 伊吹さん (高校生)

今年度の「女と男の一行詩」では、特に若い世代の作品が目されました。最終的に中学生1作品、高校生4作品、一般1作品の6作品が入賞作品に選ばれました。最優秀賞には、作者の豊かな感性と率直な気持が素直に表現された中学生の作品が選ばれました。

家庭における男女の協働を描いた高校生と一般の2作品は、一行詩に描かれた情景を身近に思い浮かべることができるものでした。社会における男女平等を啓発した3作品はすべて高校生の作品でした。社会に残る男女平等・共同参画への課題をそれぞれがしっかりと認識し、若い世代の感性で優れた一行詩にまとめあげてくれました。

北海道で初めて日本女性会議が開催された2014年、その記念すべき年に中高生の活躍で「一行詩」の選考を終えることができたことは、本市の男女共同参画が世代を超えてその裾野を広げていることを感じさせるものでした。女性活躍推進や男性にとっての男女共同参画への社会的機運が高まる今日、若い世代のみならず今後は一般の方々からのさらなる応募と活躍を期待したいと思います。

「女と男の一行詩」選考委員長  
岡庭 義行

(帯広大谷短期大学副学長/教授  
帯広市男女共同参画推進市民会議会長)

「女と男の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。女性と男性それぞれが、個性や能力を発揮していける男女共同参画社会の実現のために、日常の身近なところから「男女平等」「男女の扱い・役割の違い」などについて感じる想いを自由に表現した作品を募集しました。

### 皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。

帯広市役所 男女共同参画推進課  
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地  
電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171  
電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成27年3月発行

- 発行：帯広市 男女共同参画推進課
- 企画・編集：帯広市男女共同参画推進員  
清水マチ子・小野寺和子・池田 淳一  
伊藤 容子・遠藤 妙子・沼田 秀実